

単元名

「なつだ あそぼう」 ～じぶんだけの〇〇しゃぼんだまをつくってあそぼう！～

本単元で育成する資質・能力

主体性 協調性

単元について

本単元は、学習指導要領の内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」と(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかわるこの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」を受けて設定したものである。

児童にとってシャボン玉は身近な遊びで一度は遊んだことのあるものである。また、吹き方や道具を変えることで、もっと楽しくなるように工夫することのできる遊びである。「こんなシャボン玉を作りたい」という思いをかなえるための道具を作ったり、とばし方を工夫したりする活動を通して、主体性を育むことができると考える。

また、友だちと一緒に考え、一緒に楽しむことで、友だちとの関わりを大切にすることができる。さらに、幼児との交流(年3回)の1回目として、自分たちで作った道具で幼児と一緒に遊ぶ活動を行うことで、協調性を育むことができると考える。

児童の実態

第1学年1組児童

(男子12名、女子12名 計24名)

自分で作ったおもちゃで遊んだことがある児童の割合	62.5%
自分より年下の子と関わりがある児童の割合	66.7%

自分で作ったおもちゃで遊んだことがあると答えた児童は半数以上いたが、ほとんどが恐竜やロボット等のフィギュアのようなものが多かった。シャボン玉の道具等既成の物を使うことが多く、自分で作るという経験は少ないと考える。また、年下の子と関わりがあるかという質問に、小学校に入ってからなくなったと答える児童が約3割いた。入学してから上級生と関わるが多くなった児童にとって、幼児との交流は普段体験できない経験になると考える。

指導に当たって

指導にあたっては、活動目標を「じぶんだけの〇〇しゃぼんだまをつくってあそぼう」と設定し、どんなシャボン玉をとばしたいかを考えて道具を作ったり、とばし方を工夫したりして遊ぶという目的意欲を引き出す。また、年間を通して幼児との交流活動を行うことや、1回目はシャボン玉パーティーを企画して一緒にシャボン玉をして遊ぶことを伝え、自分たちが作って楽しむだけでなく、幼児が楽しくなるような道具を作って遊ぶという相手意識をもたせる。指導の具体的視点は、「シャボン玉の工夫」として、身近にある物を利用してシャボン玉をとばす道具をつくって遊ぶことで、自然の面白さに気付いたり、遊び方を工夫したりしながら、友だちと楽しく過ごすことができる力を身に付けさせる。

第一次では、いろいろな水遊びを経験させたうえで、シャボン玉の不思議さや面白さを実感させると同時に、さまざまな発想や発見が生まれるシャボン玉遊びに焦点を絞り、もっとやってみたい、工夫したいという意欲を高める。また、「幼児との1回目の交流で、自分たちが作った道具を使って一緒に遊びたい」という思いをもたせる。そこから、「もっと～なシャボン玉を作りたい」という一人一人の思いを共有させ、その実現に向けてこだわって活動できるようにする。

第二次では、シャボン玉の道具を工夫して作らせたり、とばし方を考えさせたりする。初めに使用する道具をストローにして、そこからさまざまな道具へ変化させていくことで、工夫する視点を明確にしたり、得た気づきを生かしたりしながら活動することができるようにする。その際、友だちと比べたり繰り返し試したりする時間をしっかり確保することで、学級全体で交流して気づきの質を高めさせる。

第三次では、幼児と第1回目の交流活動として、シャボン玉パーティーを開催し、作った道具を紹介したり一緒に遊んだりして関係づくりを行う。振り返りには、交流についても触れ、2学期のおもちゃ作りや交流活動に生かしていけるようにする。

単元の目標

- 身近にある物を使ってシャボン玉をとばす道具を工夫して作ったり友だちや幼児と遊んだりする活動を通して、遊びを工夫する面白さや水の性質の不思議さ、夏の自然と自分の生活との関わりやそれらと楽しく関われる自分や友だちのよさに気づき、進んで遊びを楽しむことができるようにする。

単元の評価規準

		生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
単元の 評価規準		夏の自然に関心をもち、夏の自然を利用して、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	比べたり、試したり、見立てたりして、シャボン玉をとばす道具を工夫し、友だちや幼児と関わって遊んだことを振り返り、自分なりの方法で表している。	夏の自然の様子や、遊びをつくり出す面白さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。
学習活動（小単元）における 評価規準	1	①身近な物を利用した水遊びに関心をもち、友だちと遊ぼうとしている。	①ルールやマナーを守って水遊びを行い、楽しかったことや気付いたことを表現している。	①身近な物を利用して、水遊びができることに気付いている。
	2	②思いや願いをもって、シャボン玉の道具を作ったり、とばし方を工夫したりしようとしている。	②友だちと比べたり、試したりしながら、シャボン玉をとばす道具を工夫して作っている。 ③友だちのアドバイスや友だちの道具のよさを参考にして、道具を工夫して作っている。	②遊びの楽しさや遊びを工夫したり、遊ぶ道具を作り出したりする面白さに気付いている。 ③道具によって変わるシャボン玉の面白さや不思議さ、友だちのよさや自分との違いに気付いている。
	3	③友だちや幼児と関わりながら、自分たちが作った道具を使って、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	④友だちや幼児と関わって遊び、楽しかったことや気付いたことを表現している。	④遊びの楽しさや、楽しく遊んでいる自分や友だちのよさに気付いている。

本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

主体性	「もっと～なシャボン玉を作りたい」という思いをもって、道具を作ったり、とばし方を工夫したりしている。
協調性	友だちと協力したり競い合ったりしながら道具を作ったり、とばし方を工夫したりして、シャボン玉遊びを楽しんでいる。

指導計画

全 7 時間 （本時 5 / 7 時）

次	主な学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力
一 (1 時間)	【小単元の目標】 水遊びを楽しもう 身近な物で遊べる水遊びに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとする。		
課題の設定	○身近な物を使って水遊びを行い、楽しかったことや気付いたことを紹介し合う。（1）	関①（発言） 気①（発言・行動観察） 思①（発言・ワークシート）	主体性
	◇思い 「もっと大きな（たくさんの）シャボン玉をとばしてみたいな。」		

二 (4時間) 情報の収集 整理・分析 まとめ・創造・表現	【小単元の目標】シャボン玉の道具をつくろう シャボン玉の大きさや数、形等への思いや願いをもって、道具を作ったり、とばし方を工夫したりする。 ○どんなシャボン玉をつくりたいかを考え、自分の思いに沿って、道具を作る道具を選び、道具を作る。(2) ○出来上がった道具を使って、同じ思いや願いをもった友だちと一緒にシャボン玉遊びを行い、自分や友だちのよさを見つけ、交流する。(1) ○アドバイスをもとに1回目に作った道具をどのように改良するかを考える。(1) 【本時】 ◇思い 「幼児と一緒に楽しくとばしたいな。」	関②(発言・ワークシート) 思②(発言・行動観察) 気②(発言・行動観察) 思③(行動観察・発言) 気③(発言・ワークシート) 主体性 協調性 協調性 主体性
三 (2時間) まとめ・創造・表現 実行	【小単元の目標】幼児とシャボン玉パーティーをしよう シャボン玉パーティーを通して、幼児と進んで交流する楽しさや、友だちのよさや自分との違いに気付くとともに、次の交流活動やおもちゃの創作活動に意欲をもつ。 ○シャボン玉パーティーの計画を立てる。(1) ○シャボン玉パーティーを開く。(1) ◇思い 「楽しく遊べてうれしかったな。他のおもちゃも作って、また幼稚園の友だちと一緒に遊びたいな。」	関③(行動観察・発言) 気④(発言・行動観察) 思④(ワークシート) 主体性 協調性

本時の学習

(1) 本時の目標

前時に遊んで気付いた改良したいところと、友だちの道具と比べたり交流し合って気付いた友だちのよさを参考にして、道具を作ったり飛ばし方を考えたりすることができる。

(2) 本時で望む「主体的・対話的で深い学び」の姿

自分が作りたいシャボン玉をとばすことができるようにするために、自分が作った道具のどの部分を改良したいのかや友だちのよかったところを参考にして考え、工夫して作ったりとばし方を考えたりしている姿。

(3) 準備物

道具を作るための材料、前回作った道具、ワークシート

(4) 研究仮説にかかわって ～「主体的・対話的で深い学び」を目指して～

① 学びを深める書く活動

- ・前時に振り返りとして改良したいところをワークシートに書いておき、さらに交流を通して工夫しようと思うところを書き加えることで、前回作った道具のどの部分を改良したいのかを明確にする。

② 対話の充実

- ・事前に改良したい点や友だちの道具でよかったところなど、書いておいたことを交流することで、自分の道具をどう改良するかを明確にする。また、友だちの意見を聞いて、さらに参考にできるところはないかを考え、自分の道具作りに生かしていく。

(5) 学習の展開

学 習 活 動	指導上の留意事項（・） 「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手だて（◆）	○ 評価規準【教科】 （評価方法） ★ 望ましい姿 【資質・能力】
1 前時の学習を振り返り、本時の学習のめあてを確認する。	・前時の振り返りで書いたことを想起させ、自分の道具をもっとよくしたいという意欲をもたせる。	
もっと〇〇なしゃぼんだまをとばせるように、じぶんのどうぐをよくしよう！		
2 自分が作りたいシャボン玉と、そのためにどんなところを改善していくのかを交流する。  一度にたくさんのシャボン玉をとばしたいのに、数が少なかった。もっとたくさんとばせるように、ストローの本数をふやそう。  もっと大きいシャボン玉にしたい。〇〇君の道具は私より大きな輪を作っていたから、私ももっと大きな輪にしたい。	・自分の道具の改良したいところや友だちのよかったところを交流することで、道具を作る際の参考にしていく。 ◆自分と同じ思いのシャボン玉を作ろうとしている友だちの道具から参考にできるところを見付けさせ、自分の道具作りに生かすようにする。	
3 道具を作る。	◆同じ思いのシャボン玉を作ろうとしている友だちの道具と比較させて、何をどうしたいのかを明確にさせてから作るようにする。	★ 主体性 自分が作りたいシャボン玉を作るために、どんな道具にしようかを友だちの道具のよさを参考にしている。
道具をよくしただけでよかったかな？		
4 とばし方について工夫しようとしていることを発表する。  私は、大きなシャボン玉を作りたいから、やさしくゆっくり吹こうと思う。	・シャボン玉で遊んだ時のことを思い出させて、道具だけでなく、とばし方も工夫することも意識させる。	○ 思考・表現 友だちのアドバイスや友だちの道具のよさを参考に、道具を工夫して作っている。 (行動観察・発言)

ぼくは、手を速く大きく動かして、小さいシャボン玉をたくさん作ろうと思う！  5 本時を振り返り、次時のめあてをもつ。 ◇思い 「自分が作った道具を使って幼稚園の子と一緒に遊びたい。」		
---	--	--

(6) 板書計画

⑥ もっと〇〇なしやぼんだまをとばせるように、じぶんのどうぐをよくしよう！			
○学しゅうのじゅんばん ①こうりゅうする。 ↓ ②どうぐをつくる。 ↓ ③できたどうぐをこうりゅうする。 ↓ ④ふりかえりをする。	【おおきい】 ・ストローのさきをきる ・はりがねでわをおおきくする ・ダンボールをまるめて どうぐ とばしかた ・ゆっくりふく ・ゆっくりおおきく	【たくさん】 ・ストローのかずをふやす ・ストローをくつつける ・コップにあなをたくさんあける ・いきをしっかりすってふく ・ながくふく ・はやくてをうごかす	【かたちをかえて】 ・モールでかたちをつくる ・はりがねにけいとをまく